

県民交流広場事業

運営上の工夫・ノウハウ

～ 実施地区の事例から ～

ここに記載してある工夫・ノウハウは、県民交流広場に取り組んでいる地域において実践されているものです。皆さんの地域でも、活用できる工夫・ノウハウがあれば、是非実践してみてください。

また、ここに掲載されていないすばらしいアイデアがあれば、是非、お近くの県民局地域協働課か県生活創造課までお教えてください。

今後も、各地域で実践されている工夫を随時、追加していく予定です。

平成19年7月

兵 庫 県

こんなときはどうしたらいいの？ ここには、いろんな課題や悩みに対するヒントやアイデアをたくさん紹介しています。皆様の活動のご参考としてお役立てください。

目 次

1 組織づくり・多様な主体間の連携

役員の負担を少しでも軽く。役割分担も進めたい！
NPOやボランティアの参画！
できるだけ多くの人や団体の参画を得る工夫
特色ある組織づくり（情報発信・共有の強化）

P. 1 【事例 1・2】
P. 1 【事例 3～5】
P. 1 【事例 6～9】
P. 1 【事例 10】

2 企画づくり・合意形成

みんなの意見を出し合う工夫
よりよい企画づくりのために！

P. 2 【事例 11～14】
P. 2 【事例 15】

3 施設整備・利用

利用しやすい「広場」にするために！
コストを抑える工夫を知りたい！
地域にとけ込んだ「広場」とするために

P. 2 【事例 16～21】
P. 3 【事例 26～30】
P. 3 【事例 31～33】

4 広場・組織の運営

開かれた運営とするために
いろいろな意見や考えを聞くための工夫
みんなが利用しやすい環境づくりの工夫

P. 4 【事例 34～38】
P. 4 【事例 39～43】
P. 4 【事例 44～46】

5 活動の企画・実施

みんなの意見を取り入れるには
たくさんの人が参加できる活動にしたい！
役員・スタッフの役割分担の工夫
活動を行う上での理念や考え方は？
特色ある活動をめざす事例

P. 5 【事例 47～50】
P. 5 【事例 51～57】
P. 5 【事例 58～60】
P. 6 【事例 61～63】
P. 6 【事例 64～71】

6 担い手の確保

担い手の確保のための工夫

P. 7 【事例 72～79】

7 資金の確保

資金確保のために、有料にしているもの
自治会費などによる資金確保
その他の工夫例

P. 7 【事例 80～87】
P. 8 【事例 88～93】
P. 8 【事例 94～97】

8 振り返りと点検

活動を点検し、次回に生かす！

P. 8【事例 98～101】

運営上の工夫・ノウハウ

事 例 集

1 組織づくり・多様な主体間の連携

役員の負担を少しでも軽く。役割分担も進めたい

- 事例1 運営組織の中に、事業推進など専門的に役割を担う「部会」(名称は、事業部会や専門部会、実行委員会など様々)を設置し、役員の負担軽減と組織の機動性を高めている。
- 事例2 案件の審議・評決を行う「議決機関」と、具体的な活動計画や予算案の策定、活動の推進を行う「執行機関」の二院制を導入した。

NPOやボランティアの参画！

- 事例3 事業を推進する部門には、地域のボランティアにも入ってもらい、活動の活性化を図った。
- 事例4 活動に幅を持たせるため、地域団体だけでなく、他地域のNPOやボランティアグループにも声かけをしている。
- 事例5 NPOが進める事業で、県民交流広場の趣旨に合うものは、地域推進委員会で議決し広場事業と位置づけ、NPOに実施してもらっている。そうすることで、NPOの参加も促進され、多様な事業が展開できている。

できるだけ多くの人や団体の参画を得る工夫

- 事例6 複数の団体が個別に行ってきた活動をより効果的・効率的に進めていくため、また、地域全体でのまちづくりに取り組む土台づくりのため、地域内にある全ての団体・グループに組織に入ってもらった。
- 事例7 子ども達の参加を促すため、小中学校PTAも参画してもらい、PTA行事と連携した活動を推進している。
- 事例8 芸術・文化・教育の観点からの活動を考えており、地元大学の教授に顧問に就任してもらっている。
- 事例9 地域・家庭・学校の連携を密にするため、地域の小学校長に事務局長になってもらった。

特色ある組織づくり(情報発信・共有の強化)

- 事例10 ITプロジェクトチームを組織し、独自ホームページの作成やブログでの情報発信を行っている。

2 企画づくり・合意形成

みんなの意見を出し合う工夫

- 事例 11 地域推進委員会に有識者に参画してもらい、地域の課題や特性を把握することから始めた。
- 事例 12 次代を担う子ども達に参加してもらうべく、小学生に意見を聞き、子ども達の参加しやすい企画づくりに配慮した。
- 事例 13 広場事業の認識を深め、また事業への協力を得るため、企画書案を全世帯に配布し、意見を聞いた。
- 事例 14 役職・肩書きに関わらず、多様な意見を出し合えるよう、ワークショップを数多く開催し、意見の抽出に努めた。

よりよい企画づくりのために！

- 事例 15 先進事例の視察研修を実施し、効果的・効率的な企画づくりに努めた。

3 施設整備・利用

利用しやすい「広場」にするために！

- 事例 16 まずどんな活動をしていくかを考え、活動内容に即した整備を実施した。
- 事例 17 施設を新築したが、場所の選定にあたっては、街の中心であることや、事務職員がいる自治会館に隣接していること（従来の活動拠点と一体的運営をねらい）など、多機能かつ効率化の観点を重視した。
- 事例 18 市役所に近接した福祉施設が老朽化で物置となっていたが、まちの中心部という立地上の好条件であったため、県民交流広場事業で改修した。改修後は誰もが気軽に利用できる住民のたまり場となっている。
- 事例 19 会議室の壁を撤去し、可動式の間仕切りにして、多人数が活動できるスペースの拡大を図った。
- 事例 20 当地区の県民交流広場は防災拠点として、災害時の避難所としても位置づけているため、自家発電装置やAED（自動体外式除細動器）も設置した。
- 事例 21 中高生の若い人たちにできるだけ広場に来てもらいたいと考えており、誰でも使えるパソコンを設置した。

利用しやすい「広場」にするために！（つづき）

- 事例 22 調理室の整備については女性に、トイレや和室の改修については、高齢者や障害者の方に、という具合に、利用者の意見を聞いて整備した。
- 事例 23 広場の利用時間を定めているが、利用者の中に責任者がいれば、時間外の利用も柔軟に認めている。
- 事例 24 「いつでも、誰でも」が広場の趣旨であり、日々の運営にも常にこの考えをベースにしている。
- 事例 25 広場事業の趣旨、利用時間、利用者の遵守事項などを記載した利用内規を策定し、節度ある利用に協力してもらっている。

コストを抑える工夫を知りたい！

- 事例 26 机や食器などの備品は、購入前に不用品の提供を呼びかけ、自分達でつくれるものは手作りし、不足分のみ購入するようにした。
- 事例 27 クーラー等の大型電気器具は消費電力の効率性を研究し、維持費が安価にすむものを選定した。
- 事例 28 高齢者の活用を考え、施設の照度を上げるようにしたが、スイッチを多くすることで、省エネ設計にした。
- 事例 29 備品購入にあたっては、再三見積もりをとった。可能なものは中古品を購入した。
- 事例 30 銘板は別注文すると非常に高価になるため、委託工事の内容に最初から入れておいた方がよい。

地域にとけ込んだ「広場」とするために

- 事例 31 施設の名称を公募した。
- 事例 32 地域の景観にマッチするような内装を心がけた。（当地区ではアンティーク風にした）
- 事例 33 地域の方々に持ち寄ってもらった花で、広場はいつも花いっぱい。訪れる方の心のなごみとなっている。

開かれた運営とするために

- 事例 34 予算、決算など地域推進委員会の重要事項や活動案内については、資料を全戸配布し、会の透明性の確保を図っている。
- 事例 35 毎月 1 回、「広場新聞」を発行し、活動状況の報告を行っている。
- 事例 36 多くの人に来てもらい、何でも話せる広場とするには何が必要かを考え、地域住民の心配事、悩み事の相談に応じる「何でも相談室」を開設している。
- 事例 37 運営会議の招集、協議事項の結果を携帯メールを活用し、早期伝達するよう心がけている。
- 事例 38 運営会議の結果は簡単なメモでもいいので必ず議事録を残し、出席者に配布している。

いろんな意見や考えを聞くための工夫

- 事例 39 地域推進委員会の運営委員会を毎月 1 回定期的に開催し、構成団体の情報交換と交流の機会を設けている。
- 事例 40 男性、女性のバランスよい参画を得るため、運営委員を男性、女性、交互に選任している。
- 事例 41 運営について、大学の学識者からアドバイスや指導を頂いている。
- 事例 42 定期的アンケート調査を実施し、多くの意見を取り入れることに努めている。
- 事例 43 広場を使用した際、広場に設置してあるノートに活動内容を記入してもらっており、今後の活動の企画の参考にしている。

みんなが利用しやすい環境づくりの工夫

- 事例 44 地域の中からボランティアを募り、当番制で可能な範囲で広場に常駐できる人を確保し、いつでも広場が利用できるようにしている。
- 事例 45 広場が小学校の敷地内にあるので、利用上のマナー、心得について注意を払っている。利用時間の厳守、品格ある態度（たばこ、飲酒はしない、騒音を出さない、汚さない等）、ボランティアによる定期清掃、施設周辺の掃除などを励行している。
- 事例 46 広場を利用したい場合、入口のホワイトボードに団体（個人）名と日時を記入してもらい、活動が重複しないようにしている。

みんなの意見を取り入れるには

- 事例 47 県民交流広場で取り組む事業について、公募している。
- 事例 48 活動の企画案について、全世帯を対象にアンケートを実施し、住民の要望や意見を調査した。
- 事例 49 活動メニューの企画・工夫には、小学生も含めたワークショップを開催し、検討している。
- 事例 50 住民が求める事業を進めていきたいと考えており、どんなことでも相談を受け付ける「何でも相談室」を設置している。

たくさんの人が参加できる活動にしたい！

- 事例 51 住民の幅広い参加を求めるイベントは、案内チラシを全戸配布している。
- 事例 52 イベント等については、ホームページ、新聞折込、有線放送、回覧板等で住民に広く発信している。
- 事例 53 より多くの住民に参加してもらえよう自治会を持たないマンションにも回覧物を配布し、参加の呼びかけを行っている。
- 事例 54 当地区では公民館を県民交流広場と位置づけているが、毎月発行の「公民館便り」に広場事業の話題も掲載するようにし、広く住民に活動の様子を知らせている。
- 事例 55 子ども達を対象にする活動については、小学校を通じ、保護者に連絡が行くよう協力してもらっている。
- 事例 56 広場で実施するイベント情報は、マスコミにも流し、新聞・テレビ等にとりあげてもらおうよう働きかけている。
- 事例 57 地域の諸団体の活動にも、広場の趣旨に合うような活動であれば、共催や後援の形で支援し、連携・協働を図っている。

役員・スタッフの役割分担の工夫

- 事例 58 事業の実施にあたっては、スタッフの役割分担を行い、誰もが必ず役割を果たしてもらうようにしている。
- 事例 59 地域推進委員会を構成している1団体が主体となる行事であっても、他の団体の役員にも役割を担ってもらい、負担の集中を避けるとともに、団体間の連携を深め、地域全体で事業を進めることを目指している。
- 事例 60 各事業の実施については、スタッフの得意分野を担当してもらっている。

活動を行う上での理念や考え方は？

- 事例 61 毎年同じ事業を行うのではなく、その年の反省点を踏まえ、よりグレードアップした事業とするように努めている。
- 事例 62 活動の実施にあたっては、「一人でも参加しやすい雰囲気づくり」を心がけている。
- 事例 63 責任感や使命だけでは長続きしないため、「気軽に楽しめる」ということを活動の基本スタンスにしている。

特色ある活動をめざす事例

- 事例 64 文化祭の舞台について、従来は役員が資材を組み立てていたが、大変な人手と労力が必要である上、けが人も出たことがあった。このため、見積もり合わせの上、舞台装置一式を借り上げることとし、危険な作業をすることもなくなり、本格的な舞台での芸能発表が可能となった。
- 事例 65 市内にある看護学校に話をもちかけ、広場において無料ででの血圧測定を毎月数回実施している。学生は高齢者と話す機会がなく、地域の高齢者は若者と話す機会がないため、どちらの世代からも喜ばれている。
- 事例 66 地域を流れる川の水質改善も活動テーマの一つに掲げ、専門の学識者に来訪願っているが、小学校の課外活動として子ども達にも参加させ、環境問題に関心を持ってもらうようにしている。
- 事例 67 地域で長年続いている祭りの記念写真を収集してファイルにまとめ、来場者が閲覧できるようにしたら、古い写真を懐かしがって見に来る人や、抜けている年度の写真を持ってきてくれる人がいて、来場者の増加や交流の拡大が図られると同時に、地域の歴史の掘り起こしにもつながっている。
- 事例 68 広場事業を始めるにあたり、最初のイベントとして、世代間交流を目的とした「手打ちうどん教室」を開催したところ、初体験の参加者も多く手間取っている人もいたが、終了すれば大変好評で、自宅でも親子でつくりたいので、再度開催して欲しいとの意見が相次いだ。
- 事例 69 地域住民全体がお客であり、またスタッフであるとの意識で、ふれあい喫茶・サロンを運営している。
- 事例 70 写真展や、絵手紙・色紙などの作品展を常開催し、来場者の増加に努めている。
食事会などを実施する場合、地元産の安全安心な食材、手作り、心をこめたおもてなしに心がけ、参加者に感動を与えるようにしている。
- 事例 71 教室や食事会で使う材料の野菜は、地域の産物を低料金で譲ってもらっており、より新鮮で安全な料理を安価に提供できている。

6 担い手の確保

担い手の確保のための工夫

- 事例 72 地域内の知識・経験・特技のある人を把握し、人材バンク的に名簿を作成し、得意分野について応援いただいている。
- 事例 73 奉仕精神の持ち主に仲間に入ってもらうことが成功のポイントであると考えているため、ボランティアグループの方々に協力してもらうよう特に心がけている。
- 事例 74 イベントの広報を行う際、内容によっては、ボランティアの募集を同時に行っている。
- 事例 75 新しい考えを持った人材を育成する観点から、「地域伝統文化教室」には、地元出身以外で地域に定住された方を担当に加えた。
- 事例 76 開講している教室は、できるだけ地域の人に講師になってもらっている。
- 事例 77 パソコン教室において、地域の若者を講師にし、熟練者にはサブ講師を依頼し、担い手の養成を図っている。
- 事例 78 60歳以下の現役世代の役員への参画を依頼したが受け入れられなかった。無理強い逆効果との考えから、イベントの開催毎に協力いただいている。
- 事例 79 地域の方の多くが無報酬で協力してくれている。そのような中から、地域の一体感が醸成されているように感じている。

7 資金の確保

資金確保のために、有料にしているもの

- 事例 80 コーヒーサーバーにコインメック（硬貨識別装置）を取り付け、飲み物を有料化している。
- 事例 81 各事業お茶代のみ徴収している。
- 事例 82 講演会や講座において参加料を徴収している。
- 事例 83 外部講師が必要な講座のみ参加料を徴収している。
- 事例 84 料理教室、ものづくり教室において材料費等の実費分のみ徴収。
- 事例 85 冷暖房設備の使用料を徴収している。
- 事例 86 会場使用料をわずかながら頂いている。
- 事例 87 備品使用規定を設け、備品使用料を徴収し、備品の維持管理費に充てている。

自治会費などによる資金確保

- 事例 88 広場事業を始めたことを機に、自治会の皆に了承を得て、自治会費を値上げした。
- 事例 89 5年後に向け、自治会費を段階的に上げていくことを検討している。
- 事例 90 構成団体から年 10,000 円徴収している。
- 事例 91 校区全戸から運営会費を徴収。
- 事例 92 広場事業の賛同者に会員になってもらい、年会費を 1 人あたり 1,000 円徴収している。
- 事例 93 諸行事を行うごとに、各企業に声をかけ協賛金をいただくよう努めている。

その他の工夫例

- 事例 94 イベント時に模擬店やバザーを開催し、売り上げを活動費に充当するようにしている。
- 事例 95 青空市で地場産品の販売を行い、売り上げを運営費に充てている。(このほか、住民作成の芸術作品の販売の例もあり)
- 事例 96 将来的に参加者負担金の徴収も視野に入れているが、それに見合うだけの魅力ある活動内容の工夫、充実に努めている。
- 事例 97 NPO を立ち上げ、寄付金を募ることを考えている。

8 振り返りと点検

活動を点検し、次回に生かす！

- 事例 98 年 4 回程度、定期的に反省会や課題の検討を協議する場を設けている。
- 事例 99 毎事業後に反省会を開催し、次回は何らかの改善を図るべく話し合っている。
- 事例 100 事業が終了するごとに、参加者に対し簡単なアンケートを実施し、事業の成果と次回への改善点の把握に努めることとしている。
- 事例 101 施設の使用人数や各講座の参加者数の実績をデータ化し、今後の運営の考にしている。